

令和6年度 第2回 名取市地域ケア推進会議 概要報告書

<日 時> 令和7年3月27日(木) 午後6時30分から午後7時45分

<会 場> 名取市役所6階第1会議室

<出席者>

委員：溝井会長、轡副会長、久保田委員、大友委員、大内委員、遠藤委員、菊地委員
洞口委員、佐藤委員

地域包括支援センター：東地域：佐藤所長、豊田社会福祉士、南地域：宮地所長、
西地域：桃野所長、中部地域：北條所長

オブザーバー：名取市医療・介護連携支援センター 高橋相談員、
名取市認知症初期集中支援チーム 尾形チーム員

事務局：安倍健康福祉部長、中山次長兼課長、高橋課長補佐、小畑係長、
山崎技術主幹、佐藤技術主幹、相澤技術主査、大竹

傍聴者：なし

【 令和6年度 第2回 名取市地域ケア推進会議 】

1 開 会

2 あいさつ 会長 溝井 賢幸 委員

3 内 容

(1) 令和6年度地域ケア会議の開催状況について 資料1 (事務局より説明)

議 長：委員のみなさまから今の説明に対してご意見やご質問はございますでしょうか。

委 員：特になし

(2) 意見交換（事務局より説明）

議 長：それでは(2)の意見交換に移ります。委員の皆様一人ずつご意見やご質問などお話しただけだと思います。報告が終わりましたので、それぞれ委員の方からご意見やご感想を頂ければと思います。

委 員：2025年は地域包括ケアシステムの区切りの年となっていますが、市役所の介護長寿課の皆様、地域包括ケアセンターの皆様、関係機関の皆様ののおかげで何とかこの形まで出来上がったと思っています。毎年お話しを聞かせていただいているのですが、10年かけて地域包括ケアシステムを名取市で作っていく中で、時代も変わり、コロナ禍や震災復興もありました。さまざまなことが名取市の中でも、地域の中でも動いてきたと思います。薬局で高齢者や、近くに小学校があるので、20.30.40代の話を聞く機会があります。世代間の断絶というところが大きな課題になっていくというような気がしています。コロナでさまざまなイベントができなくなったことはありますが、個人情報はどう尊重し、どう保護していくか、世代間や他者とのコミュニケーションが取りづらい時代になってきていると思います。共生社会という見守りという機能がどんどん弱くなり、それにコロナが追い打ちをかけたので、仕組みとして維持し

ていくためには、行政と関係機関の中で考えていかなくていけないと思っています。地元の人の話を聞くと道路拡張、宅地を作るなど、そういった意味では、住みやすい街名取ということで街づくりは進んでいくのかと思います。世代間の断絶が地域によって偏ってしまうと思っているため、そこら辺を注視しながら進めていかなくてはいけないと思っています。

委員：訪問診療していないので、高齢者福祉に関して疎いところがありますが、これから一人暮らしだろうなというような年を取っている患者さんが来ます。名取市で実施している高齢者の緊急通報システムなどあれば安心かなと思います。

委員：特養の管理者をしております。介護が必要にならないと見えてこないことや、気にかけないことや、気にしないことも多い中で、一枚のシートに情報をわかりやすくまとめていただいたのは良かったと思います。知らないと使えないというところがある、情報を得ることができるコミュニティがあるということがすごく大事になっているのではないかと感じています。施設として、介護の部分だけでなく、介護が必要になる前に繋がりをもちながら、何かできることがあればサポートに入ればと報告を聞きながら思っていました。

委員：地域住民の避難場所になっているところで、防災訓練もコロナ禍に比べてしっかりできるようになってきています。しかし、いざ地域住民が来た際にどこに避難するのか、食べ物はどうするのかなど、実際に動く現場の若い世代の職員がその現場を想像することが難しい現状があります。また、地域住民の方たちと避難訓練をするときにどこに声をかけるのか、どこと連携すれば有意義なものになるのか悩むことがありました。地域ケア会議で災害対策などについて話をした際に、避難場所になっている施設も会議に参加させていただいて、地域ケア会議が出来たら、施設にとっても安心だし、実際に災害が起きた際にもスムーズに支援ができるようになると思います。百歳のお祝いでは久しぶりにお誕生会をして、ご本人や家族も喜んでおり、ありがたいと思いました。

委員：地域ケア会議の話を聞かせていただき、それぞれ地域性が出ていて、それぞれの特性によって防災、交流づくりなど自分たちの地域のことを積極的に話し合うといういい機会だと思いました。閑上では、新旧住民の地域もあり、また震災を経ているという特徴があり、活動する地域の主体性が低いという部分も気になると思いました。保健センターでも震災に特化したということではないが、まだ継続してお話を伺っている人もいらっしゃるし、そういった部分をつかみながら、それぞれの立場で支援を考えていくことが大切だとも思いました。また、病院が閉院したということで、医療のかかりづらさもあるということも伺い、そのような問題もあるのだと考えさせられました。

委員：全体から見ますと一番心配しているのがゆりが丘など三団地のほうです。一世代終了した地域で、お店などが無く、買い物が大変だと思っています。地域の集会所などで集まりを行ってコミュニケーションを図っていると思いますが、男性が出てきていないということがネックになってきています。全体的な呼びかけなどを包括さんの方でお願いしたいと思っています。話がずれるのですが、名取市内にこども食堂が6か所ほどあります。それはだんだんと増えていると思います。子ども食堂と言っても、子供だけでなく、地域のご年配のかたも利用する地域食堂として利用しております。下増田、美田園地区は7年目になっており、一回につき200人超えている状況です。やはり、皆さんが集まってくるのが楽しみに活動しております。それを今後も大切にしていきたいと思っています。また、地域によっては集まる場所が無く、となりの集会所を借りるといっても大変なところがあります。地域の方が集まる場所を包括さんのほうで大変だと思っていますがお願いしたいです。

委員：各地域包括支援センターの所長より、地域の中でも課題がそれぞれあるということで、地域の課題を細かく絞って地域ケア会議を行っていききたいというようなお話をいただきました。もちろん、課題に目を向けて介入をしていくということも大切だと思いますが、今回ゆりが丘地区で、認知症を考えるテーマを挙げてきたということは、ようやく地域住民の中でも合意形成が図られてきたということだと思います。一つのテーマを自分たちの地域の中で時代を積み重ねていく中で、住民の方も1年をとっていくため、その必要性なども変わっていくと思います。一つのテーマを一つの軸で話し合っていくことも重要なことだと感じました。今後も継続して行ってほしいですし、集える機会がどのような地域にいい影響をもたらしたのかご報告していただけるとありがたいです。また、委員からも話があったように、名取市高齢者福祉サービスのご案内ということで、これまでは事業ごとに別々のチラシでしたが、詳しい情報が一つのシートにまとまると、困難なく申請できるようになっており、住民目線でこのようなものを作られるのは良いことだと思います。

委員：地域包括支援センターのほうで地域ケア会議を定期的に開催していただいて、それぞれの地区での課題が違うということを知ることができました。通いの場の中では、男性が少なく女性が多いと思います。男性はなかなか外に出ないし、関りが必要ないと思う方も多いと思うのでどのようにその方に関わっていくか課題だとも思います。その方が独居の場合は、より繋がり方、関係性を持つていくか課題だとも思いました。昔だと近所の人とつながりが深く、認知症でも地域で支えあってきましたが、今は個人情報の問題で、関りを持ちたくない、避けようとする人もいると思います、それが問題だとも思います。独居世帯の人とのかかわりも課題で、地域ケア会議でそのような課題について、改善していけたらと思います。私は在宅の居宅介護でケアマネをしています、施設だと最後まで看取るが、居宅だと自宅で看取ることが多いため先生との関りが重要であり、医師との連携シートを利用しています。在宅医療と介護の連携がうまくいけばいいと思います。災害に関しては地域とのコミュニケーションがうまくいってれば、いざ災害が発生した際に声がけなどはできますが、施設の方でも災害時の際に、優先的にどのような方を支援するのか独居卓上訓練をしたりしています。また、自宅に行ったとしてもどこに連れていけば良いのかなど、災害時のハザードマップを周知していないといけないと思いますし、公民館に行ってもその方がけがしている場合、病院に直接連れて行って良いのかなど、その辺の助け合いをしていかなくてはいけないと思います。

議長：包括の方で活発に会議を開いて意見交換していただいて、さまざまな課題がでてきたと思います。名取市の場合は若い世代も、高齢者も増えており、世代間の交流というものがある一つの大きな課題であると思います。認知症の方をどのように支えていくのか、認知症カフェを各地域包括支援センターの中でやられているということでどのくらい参加しているのが教えてください。

地域包括支援センター：エリアで2か所認知症カフェを行っておりまして、一か所は増田地区、毎回20名ほどが参加し、認知症についての勉強等を行っています。増田ウエルシアの方は多くても4、5名の参加となっています。少しずつ広がっていき、参加人数も大切ですが、長く続けていくことが大切だと考えております。

議長：ありがとうございます。介護している介護の人は負担が大きく悩みを抱える人同士が話合える場所、悩みを語れる場所などは正直あまりないと思うので、こういう活動が活発になるといいと思います。診療中に家族の人が悩みを伝えてくれることがあるのですが、診療の場ではなかなか話を聞いてあげられないので、申し訳なく思います。医療の話で、マイナンバーカードが保険証の機能も担うようになり、75歳以上の方は

8月から保険証使えなくなります。マイナ保険証がどこの医療機関でも情報を共有しましょうというのが最大の目的で、高齢者ほどいろいろなところに通っているので、それぞれのクリニックでどのような薬を受けているか見ることができます。マイナ保険証だと処方された薬は見れるので、踏み込んだ医療情報を確認するために高齢者ほどマイナ保険証を使った方が良いです。医療側としても患者さんにとってもメリットがあります。しかし現実としては、75歳以上でマイナ保険証で受診している人いないため、高齢者ほどマイナ保険証を使うように伝えていただければと思います。

議長：ご意見等なければ、以上で本日の議事を終了いたします。ご協力ありがとうございます。

6 その他

司会：それでは、「その他」に移ります。委員のみなさまから何かお伝えしたいことはありますでしょうか。

委員：特になし。

司会：事務局から次回の日程についてご連絡申し上げます。今回は令和7年度になります。7月前後に開催を予定しております。詳しい日程等は、開催の1か月前頃を目途にご通知いたしますので、よろしくお願いいたします。

閉会の挨拶 副会長 轡 基治 委員

7 閉会